

種を蒔く人

マタイ福音書 13 章 1-9

その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。すると、大勢の群衆がそばに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆は皆岸辺に立っていた。イエスはたとえを用いて彼らに多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい。」

弟子たちはイエスに近寄って、「なぜ、あの人たちにはたとえを用いてお話しになるのですか」と言った。イエスはお答えになった。「あなたがたには天の国の秘密を悟ることが許されているが、あの人たちには許されていないからである。持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。だから、彼らにはたとえを用いて話すのだ。見ても見ず、聞いても聞かず、理解できないからである。(中略)

だから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。だれでも御国の言葉を聞いて悟らなければ、悪い者が来て、心の中に蒔かれたものを奪い取る。道端に蒔かれたものとは、こういう人である。石だらけの所に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて、すぐ喜んで受け入れるが、自分には根がないので、しばらくは続いても、御言葉のために艱難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまう人である。茨の中に蒔かれたものとは、御言葉を聞くが、世の思い煩いや富の誘惑が御言葉を覆いふさいで、実らない人である。良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて悟る人であり、あるものは百倍、あるものは六十倍、

あるものは三十倍の実を結ぶのである。」

説教

さいきん将棋の世界で連勝記録が更新されました。プロになりたての14歳の中学生が成し遂げたのでニュースにも取り上げられ話題になっています。わたしも興味をもって中継を見ていました。将棋や碁のテレビ中継では解説者が次の一手を実際に盤面上で再現してどうなるかを5,6手先まで予想して検討しながら解説します。わたしは初めて見てびっくりしたのですが、その解説者は次の一手をコンピューターに予測させて駒をうごかして解説していました。とても強い将棋ソフトがあるそうで、そのソフトに予想させていました。人工知能(Artificial Intelligence; AI)の研究は進んでいて、チェスや将棋では人間相手では負けないぐらいになっています。プロ棋士に限らず将棋や碁の練習相手はパソコンになっているそうです。

イエスは群衆を前に「種蒔きのたとえ」を語ります。種がどのような土地に蒔かれてどのように育つかをたとえとして語ります。そしてその種明かしを弟子たちに告げます。イエスのご自身でたとえの意味を説明されるので説教者がそれに付け加えることはありません。わかりやすいので意味の解き明かしもいらないうです。まったくそのとおり、でおしまいです。

種明かしの前にちょっと気になることをイエスはいいます。

あなたがたには天の国の秘密を悟ることが許されているが、あの人たちには許されていないからである。持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。だから、彼らにはたとえを用いて話すのだ。見ても見ず、聞いても聞かず、理解できないからである。マタイ13:11-13

ずいぶんとひどいことを言うなあ、と思います。このイエスのことばについていろいろな解釈がありますが、わたしはよくわかりません。でも実感としては納得できるところもあります。(わかる人はわかる。そうでない人はわからない。でも時が来ればわかるかもしれない)

「天の国の秘密を悟る」ことについて思考実験を提案してきょうの説教を閉じることにします。

仮に、みことばAI（仮称）というソフトがあるとします。そのソフトはイエスのことばをすべて正確にインプットされています。また人工知能機能をもっているのでイエスのみことばを理解し、考えることができます。そして必要な文献や資料も聖書のみならず入手可能だと仮定します。人工知能ですのでどんな言語でも原文で理解ができ、その結果、結論を日本語であらわす（出力）こともできます。のび太が困るとドラえもんに相談するように、わたしたちもみことばAIに尋ねると示して解決してくれるようなイメージです。

もし、このようなソフトがあっていつでもそばにいてくれたらいいなあ、と思うのでしょうか。それともよけいなお世話だよ、と感じるのでしょうか。
